

2023年2月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2023年1月13日

上場会社名 株式会社 シーズメン
コード番号 3083 URL <https://www.csmen.co.jp>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 三河 宏彰

問合せ先責任者 (役職名) 管理部副部長 (氏名) 保住 光良

TEL 03-5623-3781

四半期報告書提出予定日 2023年1月16日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年2月期第3四半期の連結業績(2022年3月1日～2022年11月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年2月期第3四半期	4,709	52.6	141		136		178	
2022年2月期第3四半期	3,085		148		122		284	

(注) 包括利益 2023年2月期第3四半期 178百万円 (%) 2022年2月期第3四半期 274百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年2月期第3四半期	61.93	
2022年2月期第3四半期	98.54	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年2月期第3四半期	3,036	975	31.0	326.21
2022年2月期	2,045	1,153	54.7	388.15

(参考) 自己資本 2023年2月期第3四半期 940百万円 2022年2月期 1,118百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2022年2月期	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年2月期		0.00		0.00	0.00
2023年2月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年2月期の連結業績予想(2022年3月1日～2023年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	6,490	55.9	245		242		295		102.25

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有
新規 1 社 (社名) 株式会社チチカカ、除外 1 社 (社名) 株式会社スピークインターナショナル
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年2月期3Q	2,882,800 株	2022年2月期	2,882,800 株
期末自己株式数	2023年2月期3Q	112 株	2022年2月期	67 株
期中平均株式数(四半期累計)	2023年2月期3Q	2,882,708 株	2022年2月期3Q	2,882,733 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- (1) 本資料に掲載されている業績予想に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき当社が判断したものであります。実際の業績は、今後様々な要因によって予想値と異なる可能性があります。
なお、業績予想の前提となる条件等については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。
- (2) 第33期第3四半期連結累計期間及び第33期連結会計年度の関連する主要な経営指標等については誤謬の訂正による遡及処理の内容を反映させた数値を記載しております。また、過年度の決算訂正を行い、2022年10月14日に訂正報告書を提出しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(会計方針の変更)	8
(会計上の見積りの変更)	9
(追加情報)	9
(セグメント情報等)	9
(重要な後発事象)	9
3. その他	9
継続企業の前提に関する重要事象等	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間のわが国経済は、新型コロナウイルス感染症対策の規制類が順次緩和され、経済活動は正常化に向かいつつありましたが、一方で、急激な為替相場の変動やロシア・ウクライナ情勢に起因する資源価格の高騰などもあり、先行きは不透明な状況で推移いたしました。

衣料品小売業界におきましては、個人消費は緩やかな回復基調であったものの、物価上昇による家計の負担増加に伴い、防衛的な消費行動が強まる傾向もあり、依然として厳しい経営環境が続いております。

このような状況のもと、当社グループは、下記の対策を実施してまいりました。

(株式会社シーズメン)

当社は前期まで連結子会社であった株式会社スピックインターナショナルを吸収し、従前の当社の事業である郊外ショッピングセンターやモールでミドルプライス商品を主として販売する事業に加えて、都心部ファッションビルや百貨店でハイプライス商品を主として販売する事業を展開しております。

従前の事業を第1事業部、当期に吸収した事業を第2事業部として組織編成をしております。

(第1事業部)

商品面におきましては、仕入先の見直しや商品仕入れの精緻化によって、原価の抑制に努めると共に、ターゲットを明確にした商品戦略としてオリジナルブランド商品を強化し、また、新たな取り組みとしてチチカカブランドのレディース商品投入による、女性客へのアプローチを強化する取り組み等を進めてまいりました。

販売面におきましては、客単価の向上に取り組み、METHODではボトムを軸としたトータル提案による接客販売やブランドアウター販売の強化を図り、流儀圧搾ではスカジャンを軸としながら高単価ブランド商品の販売に注力してまいりました。

店舗展開におきましては、当第3四半期連結累計期間における出店はなく、退店は4店舗で当第3四半期連結会計期間末の店舗数は「METHOD」18店舗、「流儀圧搾」11店舗、「AGIT POINT」1店舗、「G-LAND」1店舗、「FACETASM」1店舗の合計32店舗となりました。

(第2事業部)

商品面におきましては、顧客向けの先行投入を抑制し、実需に対応できる商材群の投入を強化。高額品からリーズナブル価格の商品群まで価格帯のバリエーションを拡げ、多くの客層を取り込むべく対応をしました。また、極力値下げを抑制することにより利益率の改善を推進しました。

販売面におきましては、当期より新たに立ち上げたカテゴリーである「TORNADO MART」のルームウェア、「HIGH STREET」ではゴルフライン商品群の販売を推進し、新規客層の取り込みを図りました。また、シーズン立ち上がりのタイミングで、上位顧客様に向けて割引クーポン付きカタログを送付することにより集客向上を図りました。

店舗展開におきましては、当第3四半期連結累計期間における出店はなく、退店は2店舗、当第3四半期連結会計期間末の店舗数は「TORNADO MART」14店舗、「TORNADO MART WORLD」5店舗、「HIGH STREET」8店舗、「BLUE TORNADO」1店舗、「TORNADO MART OUTLET」1店舗の合計29店舗となりました。

(株式会社チチカカ)

商品面におきましては、チチカカの特徴を活かしたインド商材の投入を進め、1点あたりの単価が高いワンピースやスカートなどの品揃えを強化、また、高い販売実績のあるリバイバル商品のラインナップ充実や高稼働率アイテムのリピート投入を推進すると共に、メインターゲットである30代女性顧客向け商品の品揃えを強化いたしました。

販売面におきましては、引き続き値引きを抑制した定価販売を推し進め、店舗間で好調商品情報を共有することにより在庫の効率的な運用に努めると共に、来店促進を図るため、顧客様に向けてSNSを活用したクーポン配信を行いました。

ECビジネスにおきましては、自社ECサイトにキャリア決済を導入し、顧客利便性を高めると共に、EC限定商品として小型犬用ウェアやキャリーバッグなどのペットグッズを展開し、新たな客層を開拓しました。

店舗展開におきましては、当第3四半期連結累計期間における出店はなく、退店は10店舗、当第3四半期連結会計期間末の店舗数は「チチカカ」49店舗、「TITICACA MUNDO」1店舗、「アウトレット」1店舗の合計51店舗となりました。

以上の結果、当社グループの当第3四半期連結累計期間における売上高は47億9百万円（前年同期比52.6%増）、営業損失は141百万円（前年同四半期は148百万円の損失）、経常損失は136百万円（前年同四半期は122百万円の損失）、親社株主に帰属する四半期純損失は178百万円（前年同四半期は284百万円の利益）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における資産は30億36百万円となり、前連結会計年度末と比べ、9億91百万円増加致しました。主に、売掛金2億57百万円、商品及び製品8億66百万円、のれん81百万円、敷金及び保証金1億90百万円等の増加、現金及び預金3億9百万円の減少であります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債は20億61百万円となり、前連結会計年度末と比べ、11億70百万円増加致しました。主に、買掛金4億89百万円、借入金5億37百万円、資産除去債務1億94百万円等の増加であります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は9億75百万円となり、前連結会計年度末と比べ、1億78百万円減少致しました。主に利益剰余金1億78百万円の減少であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年2月期の業績予想につきましては、2022年10月14日付け「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	701,498	391,665
売掛金	135,853	393,112
商品及び製品	546,952	1,413,170
その他	165,416	50,727
流動資産合計	1,549,720	2,248,676
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	—	5,110
その他（純額）	500	403
有形固定資産合計	500	5,514
無形固定資産		
のれん	—	81,332
その他	788	14,216
無形固定資産合計	788	95,548
投資その他の資産		
敷金及び保証金	490,376	680,758
その他	3,657	6,087
投資その他の資産合計	494,033	686,845
固定資産合計	495,321	787,908
資産合計	2,045,042	3,036,584

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年11月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	117,847	607,116
短期借入金	—	257,720
1年内返済予定の長期借入金	12,748	203,525
未払法人税等	13,342	43,984
賞与引当金	18,877	32,454
資産除去債務	27,585	59,347
その他の引当金	11,975	18,138
その他	403,456	265,665
流動負債合計	605,832	1,487,952
固定負債		
長期借入金	35,658	124,398
退職給付に係る負債	—	38,013
資産除去債務	242,618	405,511
その他	7,090	5,425
固定負債合計	285,366	573,348
負債合計	891,199	2,061,300
純資産の部		
株主資本		
資本金	50,000	50,000
資本剰余金	899,296	899,296
利益剰余金	169,673	△8,851
自己株式	△38	△72
株主資本合計	1,118,932	940,373
新株予約権	34,911	34,911
純資産合計	1,153,843	975,284
負債純資産合計	2,045,042	3,036,584

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年3月1日 至 2021年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年11月30日)
売上高	3,085,967	4,709,344
売上原価	1,380,007	1,981,270
売上総利益	1,705,960	2,728,074
販売費及び一般管理費	1,854,102	2,869,758
営業損失(△)	△148,142	△141,683
営業外収益		
受取利息	271	4
受取配当金	177	0
助成金収入	21,942	11,624
その他	4,461	15,212
営業外収益合計	26,853	26,842
営業外費用		
支払利息	578	6,410
為替差損	-	13,652
その他	936	1,334
営業外費用合計	1,514	21,397
経常損失(△)	△122,804	△136,238
特別利益		
負ののれん発生益	397,938	-
有価証券売却益	8,280	-
店舗閉鎖損失引当金戻入額	-	10,596
その他	12,088	-
特別利益合計	418,306	10,596
特別損失		
過年度決算訂正関連費用	-	8,898
特別損失合計	-	8,898
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	295,502	△134,540
法人税、住民税及び事業税	11,451	43,985
法人税等合計	11,451	43,985
四半期純利益又は四半期純損失(△)	284,051	△178,525
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	284,051	△178,525

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年3月1日 至 2021年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年11月30日)
四半期純利益又は四半期純損失 (△)	284,051	△178,525
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△9,382	-
その他の包括利益合計	△9,382	-
四半期包括利益	274,668	△178,525
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	274,668	△178,525

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前題に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

収益認識会計基準等の適用による主な変更点は、以下のとおりです。

ポイント制度に係る収益認識

売上時に付与したポイントについては、従来は、付与したポイントの利用時に「売上値引」として会計処理を行っていましたが、付与したポイントは顧客に対する履行義務と認識し、契約負債を計上し、顧客がポイントを値引として使用した時に売上高に振り替えております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、第3四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。また、利益剰余金の当期首残高への影響も軽微であります。

なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。

さらに、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第3四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(会計上の見積りの変更)

該当事項はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症拡大の影響について)

前連結会計年度の有価証券報告書に記載した新型コロナウイルス感染症の影響についての重要な変更はありません。

(財務制限条項)

当社連結子会社である株式会社チチカカが金融機関から借り入れている借入金の一部(147,900千円)について、取引銀行3行とシンジケートローン契約を結んでおります。この契約には、下記の財務制限条項が付されております。

- ① 単体の貸借対照表における純資産の部の金額を、2019年4月中間期末日の純資産の金額以上に維持すること。
- ② 単体の損益計算書上の経常損益につき損失を計上しないこと。

当社連結子会社である株式会社チチカカは、当第3四半期連結会計期間及び当第3四半期累計期間において上記事項に抵触しております、しかしながら、借入先の金融機関より、期限の利益の喪失に係る権利行使を行わない旨の同意を得ております。

(セグメント情報等)

セグメント情報

I 前第3四半期連結累計期間(自 2021年3月1日 至 2021年11月30日)

当社グループは、衣料品小売事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2022年3月1日 至 2022年11月30日)

当社グループは、衣料品小売事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。